
ハイスクールライフ！

魔蘿姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハイスクールライフ！

【NZコード】

N5936C

【作者名】

魔蘿姫

【あらすじ】

超人気主人公は親友のボディーガードの様なもので、親衛隊の宿敵で妹の憧れで生徒会長の唯一の存在で、主婦で優秀で無表情。面、氷のような少年はどこか優しさを持っている…………はず。そんな彼が友人たちを支えていく物語

プロローグ（前書き）

色々と評価お願いします よろしくつ
です

更新は不定期

プロローグ

まず、俺こと秋谷 白は腕を組み思案していた。

恒例というべきか、前を歩いていたはずの親友を中心とした女生徒の人だかりができている。

はたして、親友を助けるべきか？

半ば、見捨てようとした白は人だかりを避けるように歩き出すと親友はそれに気付いたようで叫んできた。

「しろ
！助けてくれ
！」

しろとは、俺のあだ名だがいい加減、よしてほしい。
しかし、親友の頼みを無げにするほど落ちぶれていない。

親友の端水 はたみ さくの叫びと同時に、遡にたかっていた女生徒たちの視線と殺気が俺に集中した。そんなことに目もくれず、俺は親友の救助に乗り出す。

女子をかき分けかき分け、進んでいく。途中、何人かに攻撃されたが全ていなしそちらに転がす。

遂に最深部へ到達した俺が目にしたのは遡が幾多の女たちに逆セクハラをかんこうされている姿だった。

女生徒たちは、かなりやばい目付きで遡を見ているし、それを抵抗したいができないフェミニーストの遡は俺に救助を求めている。

こんだけモテると逆に憐れだな

俺は女たちから遡をひっぺがすと軽く跳躍し、五メートルほど離れた玄関へ着地する。勿論、遡を小脇に抱えて。

「相変わらず超人的だな」

と遡は呟いたが

「普通だ」と返しておくことにしよう。

遡は苦笑いを溢したが。

俺たちが玄関へ走り込んだ瞬間、グラウンドに女生徒たちの怒声が響いたが気にせず靴を履き替え、教室へ向かう。

ここ、俺たちが通う『籠れ火学園』は生徒数千一百のマンモス校である。多くの部活と自由な校風がこの学校の長所であり、人気の理由だ。芸能科もないというのに十数人の芸能人を派出している程、この学園はレベルが高く、美形が多いことから他校からも共同学園祭の申し込みも多い。

そして、この学園でアイドル的地位にいるのが親友の端水遡だ。絶大な人気を持ち、芸能プロダクションからは既にオファーまで来ている。それに親友は

「かんがえさせてください」と答えていたが押しに弱い親友のことだ。芸能界入りは確実だろう。

そして、俺、秋谷白は遡のボディーガードの様なもので、超人的かつ無表情が通常状態のサイボーグというのが一般生徒の見解だ。

それ故に、俺は女子の大半の宿敵だ。（白は相手にしていない）

四月の上旬特有の肌寒さを感じながら教室に入った。決して周りの女生徒の殺気に寒気を感じているわけじゃない。

そんな俺たちに近寄つて来る爽やかそうに見える同級生、かねや金谷智とも輝ときは手をこちらに振りながら微笑む。

「よーーーー遡ーーーしろーー！」

「よーーーー智輝ーー！」

「久しぶりだな。俺としてはその不本意極まりないあだ名をどうにかしてもらえば、再会を喜ぶのだが？」

と軽口を叩ける友人であつたりする。

「そう言つなつてー可愛くないか？」

「見た目とのギャップの激しさに俺、本人が驚くばかりだ」

横で遡が苦笑したが、いつもあだ名を変えるつもりはないだろ。

智輝はそんな遡と肩を組み今朝の話をしだした。

「は～、でもいこよな遡はモテモテで」

「やうか？あんまり嬉しくないぞ。なんつつか困惑つ」

「か～～！バツ キヤロウーそれは贅沢つてやつだぜ。少女たちのあつつい思いを受け止めてあげなきゃ 酷つてもんだー！」

「でも……」

「諦めておけ智輝。遡の優柔不斷さは筋金入りだ」

「そうなんだよな～～」

「お前ら酷くないか」

頭を垂れた遡を近寄つてきた女子に受け渡し、俺は席を立つ。智輝は時計を確認し、口に話しかける。

「おい、しり。始業式はまだまだ後だぞ？」

「俺は役員に任命されたんだ。生徒会長、直々」

「あの冷血女にかー？まあ、お前を抜擢するのはよく分かるよ。それにお似合いだからな」

「君の意図する考えはよく分からないが誉めと取つておけ」

「うんうん。行つていい」

送り出された俺は生徒会室に向かつた。

やたらと大きいドアをノックする。

すぐにソプラノ調の高い女性特有の声が中から聞こえた。
中に入ると面と向かうのは五度目となる才色兼備の生徒会長が黙々
と入学生の資料に目を通していた。

「時間丁度です。貴方らしい」

「他の役員はどうした」

「解任しました。必要ありません」

呆れた

「あと何名残っている?」

「私と貴方……だけ」

額に手を当てた。

「二人でなんとかなるのか」

「私でほとんど賄える。あなたは私と対等に立てる唯一の存在。解任するに惜しい」

認められる方向性が違わないか。

、

第一回 入学式

入学式に期待するべからず。

俺はそう前置きに言つておひづ。

校長が長話をするわけでもない。校歌斎唱を強要されるわけでもない。

ただ、生徒会長が冷めきつた眼が放つ絶対零度の吹雪が会場を包むだけだ。

最初は美女の生徒会長に新入生、特に男子は騒いだが今ではなりを潜め完全に生徒会長こと、榊 さかき 亜真 あま に飲まれていた。

かく言う俺もフォローのしようもなく行く末を見届けることしか出来ない。

学校内でのみ着ける眼鏡を一度直し、我がクラスへ視線を移す。

ばっかり遡と田があつた。その田は俺に救いを求めていたが残念ながら俺は手を出せない。

とばっかりは、いただけない。

完全に沈黙が落ちる中、やつと亜真の話が始まる。

「…………ねはよひじゅこます」

「…………ねはよひじゅこます」

なんと氣まずい“おはよひじゅこます”だらつか。新入生たちは見事に付いてこれていな。

「生徒会長、榎 亜真。以上」

……

え？ それだけ？

皆の顔に畠然とした空気が流れる。

俺も突然突き出されたマイクに眉を潜めたが一度溜め息をつき、自己紹介をする。

「俺は副生徒会長、秋谷 白。生徒会長と共に2年だ。新入生諸君、生徒会は生徒の生活に多干渉はしない。皆も知つての通り、この学園は自由だ。異性交遊、化粧、容姿など風紀も全て。だからといって羽目を外し過ぎないように注意してほしい。問題が起きれば俺たちが早急に処罰を下す。覚えておいてくれ」

俺がいい終えると亜真に渡し、退場する。

退場する時、一年生の席に座る見知った女子と曰があつと楽しそうにウインクをしている。

俺はあえて無視し、特別席で入学式の終わりを待った。

「H.R.終了」のチャイムが鳴り響く。

生徒は先生の終わりの挨拶にさつさと抜けていく。

荷物をまとめる俺の背を誰かが叩く。

振り向くと

「夏未先輩に千里先輩じゃないですか」

柏木 夏未先輩

俺の中學からの先輩だ。オレンジを思わせる茶髪と快活な笑顔をいつも絶やさない元気な人だ。

春海 千里先輩

夏未先輩の友達。

色の抜けた様な白銀の髪の持ち主だ。ハーフらしい。いつもおつとりとしていて柔軟な笑みを絶やさない。そして、男子から多くの支持を集める綺麗な女性だ。

「やあ、シロちゃん！久しぶりだね」

「お久しぶりです。白さん」

軽快な声と温和な声が返つてくる。

先輩方を見つけ、金谷も寄つてくる。

「お久しぶりですね。柏木先輩、春海先輩。いや~何度見ても、どこで見てもお美しい！」

「金谷君も相変わらず口がうまいな~」

「さりげなく自分が美女だと認めましたね」とツッコミを入れると柏木先輩は頬を膨らませ、俺を睨む。残念ながら罪悪感すら産まれません。むしろ大半が癒されるでしょう。

勿論、その小動物じみた可愛さは白には効かない。

智輝は

「な、なんて可愛らしい表情。俺もしろみみたいに責めるべきだった」と嘆いているが、ここは無視しよう。

「夏未ちゃん、その表情可愛いですわ~」

「ちよ、ちよっと一やめてよ~千里~」

春海先輩の言葉に照れる柏木先輩。

「で、何の御用ですか？」

「もうつれないな~。しろちゃん

「つむぢやさんは止めて下せー」

溜め息混じりに咳くが柏木先輩は気にするよりもなく春海先輩に同意を求める。

「かわいことと思うんだけどなー、わいつまつよな千里ー。」

「ええ、可愛らじこですわ」

「全べ」

一度田の溜め息が漏れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5936c/>

ハイスクールライフ！

2010年10月10日07時14分発行